

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

- 目的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。
- 成果** ○画家森田恒友の書誌を作成、福島県立美術館・埼玉県立近代美術館で開催の「森田恒友展」図録(11月)に掲載した。
○仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査をしばたの郷土館で行い、その成果を部内研究会で口頭発表した(8月26日)。
○彫刻家三木宗策のアトリエ及び資料調査を、郡山市立美術館の中山恵理氏他と行った。
○近代女性画家に関する研究として、栗原玉葉筆「聴鶯図」及び石川丹麗筆「華水汲図」についての作品解説を『紫陽花』創刊号(6月)、2号(12月)に発表した。
○美術評論家鷹見明彦の資料調査を遺族宅で行い、鷹見が撮影した画廊の展示風景写真の整理に着手した。
○平成29年度に行ったカリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館でのヨシダ・ヨシエ旧蔵資料調査に基づき、『美術研究』430号にその報告を掲載した。
○久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進め、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡を翻刻、その成果を部内研究会で口頭発表した(12月10日)。



(左)《伊達政宗騎馬像》等身大雛形制作過程画像、(右)等身大雛形完成画像(画像提供:しばたの郷土館)

- 論文**・橘川英規:「日本戦後美術に関する「アーカイブズ」の整理・活用のあり方—UCLA図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ旧蔵資料を例に」『美術研究』430 pp.41-48 20.3
- 発表**・野城今日子:「彫刻家・小室達 基礎研究」文化財情報資料部研究会 19.8.26
・塩谷純・伊藤史湖:「黒田清輝・久米桂一郎の書簡を読む」文化財情報資料部研究会 19.12.10

- 研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰、田中潤(以上、客員研究員)